

機関番号: 22501

研究種目: 基盤研究 (C)

研究期間: 2008~2010

課題番号: 20592647

研究課題名 (和文)

‘地域の文化’に即した生活習慣病予防の保健指導方法—都市部と農村部の比較より—

研究課題名 (英文)

Culturally sensitive health consultations to prevent lifestyle-related diseases— comparison between rural and urban

研究代表者 丸谷 美紀 (MARUTANI MIKI)

千葉県立保健医療大学・健康科学部・准教授

研究者番号: 50442075

研究成果の概要 (和文):

農村部及び都市部における地域の文化に即した生活習慣病予防の保健指導方法を調査した結果、次の点が共通して得られた。客観的な資料・調査・地域外からの助言や日常業務での住民の語り・実体験等から、歴史・経済活動の影響を受けたり地域を構築していく意識や活動の様子を把握する。それらを話題に上げて指導対象者の生活における有無と変化の様子を把握したり、予防の必要性を判断したり、価値観に結び付けて動機づけていく。

研究成果の概要 (英文): By comparison between rural and urban, culturally sensitive health consultations to prevent lifestyle-related diseases was implicated following; Gathering information from research data and observation of community etc. Using such information about culture to assess the risk in subject lifestyle, and to motivate subject by connecting their value.

交付決定額

(金額単位: 円)

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	1,700,000	510,000	2,210,000
2009年度	900,000	270,000	1,170,000
2010年度	800,000	240,000	1,040,000
総計	3,400,000	1,020,000	4,420,000

研究分野: 医歯薬学

科研費の分科・細目: 看護学・地域老年看護学

キーワード: 生活習慣病予防、保健指導、文化、公衆衛生看護

## 1. 研究開始当初の背景

生活習慣病は長年我国の死因の上位を占め、生活習慣病予防の保健指導方法の研究的開発は喫緊の課題となっている。健康科学の分野では、行動変容モデルやヘルスカウンセリング等を基盤とした指導方法が研究されているが、生活習慣病は、生活習慣が築かれた個人、家族、所属集団、地域の文化的背景が関与するため、主体的な行動変容を促すた

めには文化に即した保健指導が効果的となる。そこで、国内外で文化に着目した保健指導方法が研究されているが、食文化のみに着目した研究や [Ammerman AS. 2003]、保健師活動全般に関する研究が [山田 2006] 主流である。地域看護学において、保健師が長年実践してきた、住民の価値観・規範や生活様式などの文化に即した個人への保健指導方法を明らかにして検証し、方法論を確立する研

究はされていない。

## 2. 研究の目的

農村部・都市部それぞれの地域の文化に即した生活習慣病予防のための保健指導方法を明らかにし、さらに両者を比較検討することにより、「地域の文化」に即した生活習慣病予防の保健指導方法」を確立する。

## 3. 研究の方法

以下、3年間で研究を行った内容を年度ごとに示す。

### 【平成20年度】

「農村部における地域の文化に即した生活習慣病予防の保健指導方法」の充実

1) 調査期間：平成20年7月～21年2月

2) 調査対象

①地域：先駆的に生活習慣病予防に取り組んでいる2県の4町。

②調査対象保健師：5年以上の保健師経験のある者7名（保健センター所属、勤続年数12年～20年：平均16年）。

3) 調査方法：

①保健指導場面の参加観察、及び関係資料の閲覧：生活習慣病予防の保健指導場面に参加観察し、許可を得て記録・録音した。

③各種事業及び地域の行事への参加観察：生活習慣病予防以外の事業（育児支援、介護予防等）及び地域の行事に参加し、地域の文化の内容を調査した。

4) 分析：保健指導場面で自己決定した事柄が実行・継続できた20事例について、質的機能的分析により、保健師がどのように農村部の文化に即して生活習慣病予防の保健指導をしているかを調査し、先行研究で得た「農村部における地域の文化に即した生活習慣病予防の保健指導方法」を充実させた。

5) Georgetown University Laura Anderko 博士を招聘し、分析結果の妥当性を確認すると共に、我国とは文化の異なる米国での生活習慣病予防の取り組みについて研修

を行った。

### 【平成21年度】

「都市部における地域の文化に即した生活習慣病予防の保健指導方法」の調査

1) 調査期間：平成21年6月～22年2月

2) 調査対象

①地域：関東東部の都市部。各種研究会等に活動が報告され、先駆的に生活習慣病予防に取り組んでいる2市。

②調査対象保健師：5年以上の地区活動経験のある保健師7名。

3) 調査方法：

①保健師への半構成面接：生活習慣病予防の保健指導で、成功した事例について、事例の経過、及び、保健指導で活用した地域の文化の内容、地域の文化の把握方法、保健指導へどのように地域の文化を活用したか、について聴取した。

②保健指導場面の参加観察：生活習慣病予防に関する保健指導場面に参加観察し、保健師と指導対象者の言動を記録した。

③各種事業及び地域の行事への参加：地域の文化の理解を深めるために、保健福祉事業や地域の行事へ参加したり、商店や公共交通機関等を利用したりした。

4) 分析方法：上記3つの調査方法により収集したデータを、a. 保健指導で活用した地域の文化の内容、b. 地域の文化の把握方法、c. 保健指導へどのように地域の文化を考慮したか、を抽出し、各々コードを作成した。

### 【平成22年度：「地域の文化」に即した生活習慣病予防の保健指導方法の充実】

筆者らの5つの先行研究から作成した「地域の文化を考慮した生活習慣病予防の保健指導方法ガイド（農村部）」及び、平成21年度調査により明らかになった「地域の文化を考慮した生活習慣病予防の保健指導方法（都市部）」の結果について、1町2市で確認し、内容の充実を図った。

なお、「地域の文化を考慮した生活習慣病予防の保健指導方法ガイド（農村部）」は、その一部を、日本地域看護学会第 13 回学術集会（2010）でラウンドテーブルで、地域看護実践者、研究者へ提示し、意見をいただき、内容の充実を図った。

1) 調査期間：平成 22 年 8 月～平成 23 年 12 月

2) 調査対象

①地域：千葉県外で、先駆的に生活習慣病予防に取り組んでいる 2 市 1 町。

②調査対象保健師：5 年以上の保健師経験のある者 4 名（平均 21 年）。

3) 調査方法：

①担当保健師に以下についてインタビューを行った。当該地域の文化の内容、地域の文化の把握方法、生活習慣病予防の保健指導で、どのように地域の文化を活用したか。

②「農村部における地域の文化に即した生活習慣病予防の保健指導方法」または「都市部における地域の文化に即した生活習慣病予防の保健指導方法」の妥当性についての意見。

③保健指導場面の参加観察、及び関係資料の閲覧

生活習慣病予防の保健指導場面の見学。許可を得て、記録した。

③地域の観察：

地域の文化を深く理解するために、地域のウィンドウシールドサーベイを行った。

4) 分析方法

①各地域の調査内容から、次の 3 点を抽出した。地域の文化の内容、地域の文化の把握方法、生活習慣病予防の保健指導で、どのように地域の文化を活用したか。

②上記の結果を、筆者らの 5 つの先行研究から作成した「地域の文化を考慮した生活習慣病予防の保健指導方法ガイド（農村部）」及び、平成 21 年度調査により明らかになった「地域の文化を考慮した生活習慣病予防の保健指導方法（都市部）」の結果と照

合し、加筆修正を加え、内容の充実を図った。

#### 4. 研究成果

3 年間の研究成果を年度ごとに示す。

##### 【平成 20 年度】

保健師は、地域の文化を、変容していくもの、変容の少ないもの、新たに定着しつつあるもの、という捉え方をしていた。個人への保健指導を通じて、健康を志向した地域の文化を育むことを意図して、次のように保健指導していた。個人・地域の両側面から地域の文化を把握する、個人に対し地域の文化への思いを受け止めつつ生活習慣病の要因となる可能性に気づきを促す、地域の文化に抵抗の少ない方法や地域の文化を活用した方法の提案を個人・地域の両側面から行う、というものだった。

生活習慣病予防の保健指導において、保健師は次の方法で個人の健康を支援することにより健康を志向した地域の文化を育む事につながる。即ち、変容の可能性と発祥に着目して地域の文化を捉え、生活習慣病予防に望ましい生活と地域の文化との矛盾に対する個人の葛藤を受けとめ、帰属感を保障し、安心感を支える。その上で、個人・地域の両側面から、変容の可能性に即した方法及び地域の取り組みの活用を提案したり強化したりする。

##### 【平成 21 年度】

都市部において、保健師の地域の文化の把握方法は、多様性と流動性を意識し、地域で埋もれがちな住民の情報を地域をよく知っている住民から得る、地元のメディアを活用し変容の速度が速い流行を把握する、変容の速度が速い地域の文化を常に更新する、が特徴的であった。

地域の文官愛用は、社会的弱者を含む地区毎・居住年数毎に多様な生活様式、物理的・

人的環境の安全性への懸念、新しい者への感受性、新たな故郷の創設、があった。

地域の文化を考慮した保健指導は、ミラーの「動機づけ面接法」の4つの原則「共感を表現する・矛盾を拡大する・抵抗に巻き込まれながら進む・自己効力感を援助する」に相当する過程を経ていた。特徴的には、慎重な導入、社会的弱者も含めて、全ての人々が共に健康でいられる街を創り上げる気持ちに働きかける点で、特徴があった。

#### 【平成 22 年度】

1) 地域の文化を考慮した生活習慣病予防の保健指導方法ガイド（農村部）

以下の点が加筆・修正された。

##### ①地域の文化の把握方法

「i. 調査や助言から客観的な情報を得る」「iii. 住民や多職種に尋ねたり相談・情報提供を受けて実体験を把握する」

##### ②地域の文化の内容

「本土の影響による変化」及び、「隔離され限られた土地」が特徴的で、ガイドに示された地域の文化の内容のカテゴリー各々に「変化」を加筆した。

##### ③地域の文化を考慮した保健指導

「i. 変化する住民同士や保健師との関係性に応じて話をする中から生活習慣病の要因を把握する」「ix. 変容の少ない地域の文化に合わせて生活習慣病の要因を改善する方法を検討する」等、変化する人間関係や生活様式を考慮したり、変化の少ない自然・物理的な環境を考慮した方法が得られた。

2) 地域の文化を考慮した生活習慣病予防の保健指導方法（都市部）

以下の点が加筆・修正された。

##### ①地域の文化の把握方法

「1. 統計資料や調査、簡便な集計から把握する」が追加され、修正された内容は、「6. 保健師自身の地域生活の中での実感／観察」

「8. 所属部署変更後も情報を蓄積しつつ確認／更新する」であった。

##### ②地域の文化の内容

多様な出身地・健康への関心の変化、という点で修正された。新たに鉄道が開通し、転入者が年々増加している地域であり、出身地の多様性が色濃く出たと考える。また、転入者のもたらす健康志向が古くからの住民を刺激し、共鳴し合って健康を志向した地域を作り上げようとしていると考える。

##### ③地域の文化を考慮した保健指導

「地域の文化に応じて指導の強弱を付ける」が追加された。保健師との関係性、健康への関心の高さ、本人にとっての優先性等を捉え、指導の積極性を調整していた。「多様な生活・家族関係に合わせて／活用した方法を検討する」には、家族関係の多様さが反映され、家族ぐるみで指導することを意図的に行っていた。

##### 3) 農村部及び都市部の比較

以上、地域の文化を考慮した生活習慣病予防の保健指導方法を、農村部と都市部で比較したところ、以下の共通する項目と特徴が得られた。

##### ① 共通項目

〈地域の文化の把握方法〉

- ・客観的な資料・調査・地域外からの助言
- ・日常業務での住民の語り・実体験
- ・多職種・住民からの情報提供／共有
- ・日常業務での観察
- ・日常生活における実感／観察
- ・地元の情報網
- ・情報の蓄積／確認／更新

〈地域の文化の内容〉

- ・歴史・経済活動の影響を受け変化する家庭・労働生活・健康管理とそれらへの価値観
- ・時代の価値観の影響を受け、変化する家族の生活・役割・関係性
- ・人口動態に影響を受け変化する地域住民の関係性
- ・自然・物理・人的環境に対する住民の捉え方

- ・ 伝統の保守と新たなことへの感受性
- ・ 健康を志向した地域の構築への意識と活動

〈地域の文化を考慮した保健指導〉

・ 住民同士や保健師との関係性に合わせて指導を開始する

・ 生活習慣病の要因となりがちな地域の文化を話題に上げ、それらの有無と変化の様子を把握し、予防の必要性を判断する

・ 生活習慣病の要因となりうる地域の文化が本人の生活に見られても、まずは本人にとっての意味を共有する

・ 地域の文化に関連付けて生活習慣病の要因となりうる生活に気づきを促す

・ 地域の文化が生活習慣病の要因となり得ても本人にとっての意味や変更する難しさを認める

・ 地域の文化や変容の様子に合わせて指導の強弱や優先順位を調整する

・ 地域の文化に結び付けて生活や価値観を変更する方法を検討する

・ 生活習慣病の要因となりうる地域の文化を徐々に変更する方法を検討する

・ 変容の少ない地域の文化に合わせた方法を検討する

・ 地域の文化を伝承したり新たな方法を取り入れた方法を提案／支持する

## ② 農村部・都市部の特徴

〈地域の文化の把握方法〉

農村部は地域外からの助言が、都市部は情報をよく持っている住民や地元メディアの活用が特徴的だった。

〈地域の文化の内容〉

農村部は、歴史を踏まえて緩やかな変化を捉える、他世代の関係性、保守と変容が特徴的で、都市部は、多様な職業・家族、流動的で速い変化、地元を作る意識が特徴的だった。

〈地域の文化を考慮した保健指導〉

農村部は開かれた導入が、都市部は慎重な導入が必要であった。変化の少ない環境を考慮することは農村部に特徴的であった。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計3件)

① 丸谷美紀、大澤真奈美、雨宮有子、宮崎美砂子、農村部における地域の文化を考慮した生活習慣病予防の保健指導方法—健康を志向した地域の文化を育むことを意図して、日本地域看護学会誌(査読有)、13(2)、2011

② Miki Marutani、Misako Miyazaki、Culturally sensitive health counseling to prevent lifestyle-related diseases in Japan、Nursing & Health Sciences、12(3)(査読有) 2010、392-398

③ 丸谷美紀・宮崎美砂子、農村部における地域の文化を考慮した生活習慣病予防の保健指導方法—主体的な行動変容を促すために—、日本地域看護学会誌(査読有)、11(2)、2009、38-45

〔学会発表〕(計9件)

① 雨宮有子、丸谷美紀、宮崎美砂子、都市部の高齢者の生活様式・行動と生活習慣病予防を目指した保健指導へのそれらの活用、第3回文化看護学会学術集会、2011、千葉市

② Miki Marutani、Shoko Tsuruoka、Minami Osawa、Junko Shimasawa、Rie Iino、Misako Miyazaki、Culturally considered health consultations employed by Public Health Nurses in small Japanese island in preventing lifestyle related diseases、the13th East Again Forum of Nursing Scholars、2011、Seoul Korea.

③ 丸谷美紀 大澤真奈美 飯野理恵 雨宮有子 蔦谷修子 宮崎美砂子、地域の文化を考慮した生活習慣病予防の保健指導ガイドライン試案—農村部における研究知見の統合より—、日本地域看護学会第13回学術集会、2010、札幌

④丸谷美紀 大澤真奈美 飯野理恵 雨宮有子 蔦谷修子 宮崎美砂子、農村部における健康を志向した地域の文化を育む保健師の個別援助—高齢の農家に対する生活習慣病予防の保健指導場面より—、第2回文化看護学会、2010、千葉市

⑤丸谷美紀 大澤真奈美 飯野理恵 雨宮有子 蔦谷修子 宮崎美砂子、農村部における地域の文化を考慮した生活習慣病予防の保健指導方法 第2報、第68回日本公衆衛生学会総会、2009、奈良市

⑥ Miki Marutani Manami Osawa Misako Miyazaki、Culturally sensitive health counseling provided by public health nurses for the prevention of life-style related diseases in Japanese rural communities — Qualitative research focused on motivating elderly farmers to change their behavior — ,The 14th International Conference Community Health Nursing Research. 2009、Adelaide、Australia

⑦ Miki Marutani, Kayoko Takahashi, Yuri Kawasaki, the “Comfort care” provided by PHNs in health counseling for preventing life-style related diseases - qualitative study of four cases in rural Japanese communities -, 12<sup>th</sup> East Asian Forum Of Nursing Scholars, 2009、Tokyo

⑧丸谷美紀・宮崎美砂子、農村地域における文化を考慮した生活習慣病予防の指導方法、第11回日本地域看護学会学術集会、2008、沖縄

⑨山田洋子、大澤真奈美、丸谷美紀、宮崎美砂子 他2名、保健師による生活習慣病予防活動の構造 文献にみる保健師の実践知の統合と検証、第67回日本公衆衛生学会総会、2008、福岡

[図書] (計0件)

[産業財産権]

○出願状況 (計0件)

名称:

発明者:  
権利者:  
種類:  
番号:  
出願年月日:  
国内外の別:

○取得状況 (計0件)

名称:  
発明者:  
権利者:  
種類:  
番号:  
取得年月日:  
国内外の別:

[その他]  
ホームページ等

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

丸谷 美紀 (MARUTANI MIKI)  
千葉県立保健医療大学・健康科学部・  
准教授  
研究者番号: 50442075

### (2) 研究分担者

雨宮 有子 (AMAMIYA YUKO)  
千葉県立保健医療大学・健康科学部・  
講師  
研究者番号: 3027924

### (3) 連携研究者

大澤 真奈美 (OSAWA MANAMI)  
群馬県民健康科学大学・看護学部・准教授  
研究者番号: 50331335

### (4) 研究協力者

宮崎美砂子 (千葉大学大学院)  
嶋澤順子 (慈恵医科大学)  
鶴岡章子 (淑徳大学)  
飯野理恵 (千葉大学大学院)  
蔦谷修子 (千葉市保健所)  
杉田めぐみ (千葉県立保健医療大学)  
山浦晶 (千葉県立保健医療大学)